



今月号からは、淀川区まちづくりセンターのスタッフが地域を訪問し、興味を持ったスポットや取り組みを紹介していきます。第1回は、十三駅の東側、区役所がある十三地域です。



①善久寺(十三東1丁目)

区役所の向かい側、細い道を入ったところにある善久寺は、享保18年(1733年)に建てられた浄土真宗本願寺派のお寺です。代々の学問好きの住職が寺子屋を開いたことが、現在の十三小学校の元となっているそうです。十三には賢い子が育つ伝統があるのでしょうか。



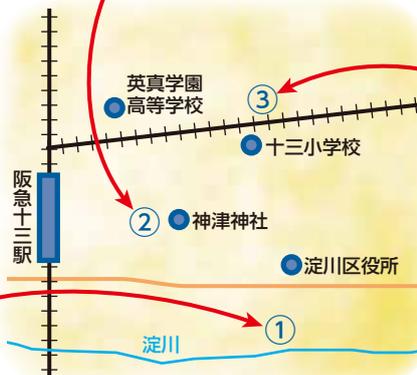
②十三東公園(十三東2丁目)

神津神社の隣にある十三東公園では、フェンスで囲まれた砂場が撤去され、きれいな花壇ができました。十三東公園愛護会や十三地域女性会の皆さんを中心に管理され、定期的に公園の清掃も行われています。地域の憩いの場になることが期待されています。



③十三中学校壁画(十三東5丁目)

阪急京都線の電車から見える十三中学校の壁面に描かれた絵を見たことがある方も多いと思います。2010年2月に十三中学校生徒会が立ちあげたJUSOプロジェクトの一環として描かれたもので、全63人の生徒が今にも動き出しそうな様子で描かれています。十三中学校の生徒が、イキイキと育っている様子が伝わってくる躍動感のある壁画です。



善久寺の院住さんに見せて頂いた十三小学校の初代校舎の写真

初めての地域探索記事はいかがでしたか? 普段は何気なく通りすぎるあんな場所やこんな場所、淀川区の魅力をお伝えし、皆さんに興味を持ってもらえる記事づくりをめざします。

淀川区まちづくりセンター Facebook 淀川区まちせん FB 検索 地域情報発信中!!



それいけ、まさふみ!

淀川区長 榎 正文

吉村新市長の職員向け訓示から

- 市民の皆さんの期待・責任の大きさを実感している。
- 橋下前市長の改革路線に民意があり、それに応えるため全力で行政のムダを省く改革を継続する。市長退職金廃止、給与40%削減。長が範を示し職員給与の削減を継続する、理解してほしい。
- 税の使い方に緊張感を持つこと。改革と成長により市民サービスの財源を生み出し、特に「子どもの教育費、医療費、無償都市大阪」をめざす。現役世代を支援し、子育て・教育をしっかりやること、高齢者を支えることになる。
- 成長都市大阪をめざす。観光を重視。都構想の設計図を3年で修正し任期中に住民投票を行う。
- 役所は権力者であることを自覚し、謙虚に全体の奉仕者たれ。公務員厚遇、お上意識があると思われないう、心がけること。

人口減少は前年に続いて過去最大

- 厚労省2015年の人口推計。29万4000人減で9年連続の自然減、出生数は約100万人。
- 将来推計人口。2010年から30年までで1100万人減、そこから10年ごとに1000万人減。10年ごとに大阪府の人口が無くなる規模。2060年には日本の人口が8674万人となる見通し(65歳以上の比率40%)。

大阪の成長とあつたが

高度成長期には人口ボーナスが働きました。しかし今は人口減少社会、放っておいたら下降の一途です。

減少局面では「満遍なく」ではなく、まちをコンパクトにしてより「集中的」に。都市部は人口集中、稼ぐためには成長への投資が必要です。

予算は優先順位があり、区民にご理解を求めつつ進まなければなりません。行政情報をより届きやすくするため、来年度は広報誌配布部数増で、広報強化します。